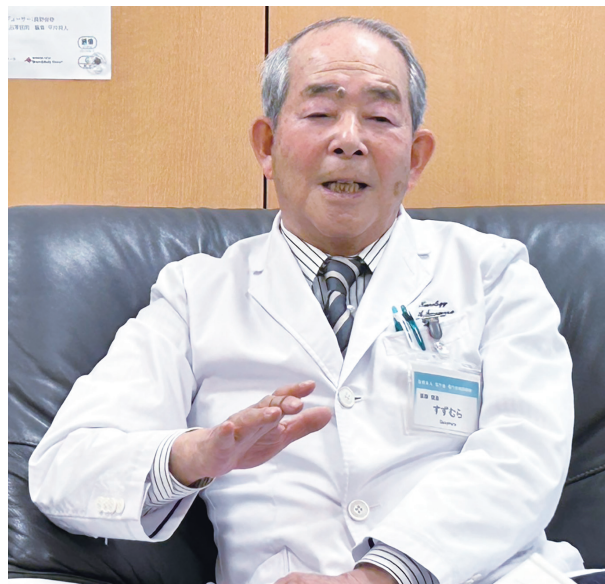


医療法人偕行会 偕行会城西病院 錫村 明生 院長に聞く

認知症疾患医療センター開設で膨らむ地域、患者家族の期待
「もの忘れ」相談を気軽に、開業医との連携で早期発見、治療へ

認知症の診断法は長谷川式認知症スケールなどの簡易な認知機能検査は知られているが、種類や精密検査、治療法の理解が進んでいるとはいえない。名古屋市中村区北畑町の医療法人偕行会『偕行会城西病院』に昨年末「認知症疾患医療センター」が開設された。専門医による精密検査、的確な診断、治療で、地域の開業医とも連携して治る認知症も見逃さない。認知症の高齢者は2025年471万6000人、40年には高齢者の15%を占めるまでに膨らむ。偕行会城西病院 錫村明生院長にセンターの役割、早期発見、治療法など新たな取り組みを聞いた。



—センターの設立趣旨をお話してください。

錫村院長 名古屋市は認知症疾患医療センターの整備を進めていて、最初に手を挙げたのが名鉄病院などで、自分のところで認知症の診断、治療を始めました。患者さんをセンターに送った開業医さんには点数が付くため患者さんがそこへ集まるわけです。

名古屋市では高齢者の認知症検査を無料にしており、当院では神経内科で認知症診療の実績がありますので、センターに指定していただいて患者さんのケアに貢献しようと決め、手を挙げたわけです。

—センターについて説明していただけませんか。

錫村院長 認知症に関する医療相談や認知症の詳しい診断や症状が悪化した場合の対応を行う認知症の専門医療機関で、都道府県や政令指定都市が指定する病院に設置されているのがセンターです。主な事業は専門医療相談、認知症の鑑別診断と治療、認知症の行動・心理症状と身体合併症への急性期対応、かか

りつけ医への研修会開催などです。近くの開業医さんが認知症ではと考えたら、うちに患者さんを送ってもらい早期発見、治療に当たるのが主な目的ですね。

—貴病院のセンター開設は昨年12月1日でした。

錫村院長 私たちのセンターは名古屋中村区で唯一、名古屋市内では6番目の開設になります。同じ日に名東区にもセンターが開設されています。現在市内には7つのセンターが設置、これから順次整備されていきます。今のところ、全国では500カ所以上、愛知県では、県が指定したセンターは11カ所、名古屋市が指定した7カ所とあわせて、計18カ所となっています。

—センターの役割は。

錫村院長 私たちの病院は技術的なレベルに問題ありませんが、症状によっては他の病院と連携して患者さんの治療に当たる形をとっています。精神科のある八事病院やグループ病院の名古屋共立病院、他にも国立病